

夏の夜

街のはずれのログハウス内
プロジェクターで
大人の乱交の映像を見た後
初めてのセックスを
みんなで経験する
幼馴染の少年少女グループ

ユウ君がね、

“アリサ、今夜みんなでいつもとは違う遊びをしようよ”

って電話で言ってきたの。

メンバーは私とユウ君の他に、ミユキとキョウスケ、あとはケイゴとミヤの6人。男3人女3人の昔から仲が良かった幼馴染グループよ。

場所は街の外れの秘密基地みたいなログハウス。

木の香りが漂う素敵な場所で、過去に別のメンバーで行ったことがあったんだ。

あそこは隣町に住むユウ君の親戚のおじさんの別荘なんだったって。

田舎町の夜にポツンと明かりが灯る小さなコンビニの前で私たちは待ち合わせた。

「よっ！みんな！待たせた??」

待ち合わせ場所に5分も遅れておいて、反省の様子もなく嬉しそうな顔をして最後にユウ君がやって来た。

「おーそーいい！！みんなユウ君が意地悪して嘘ついたんじゃないかって言ってたのよ??」

みんな期待していただけに、ユウ君の少し遅い登場が嬉しくもあり、それだけに口々に文句を言う。

「ごめんごめん！！ははっ、じゃあいこっか！」

私たちは車になんか乗れない。

だから、そこから歩いて1時間ほどかけて向かう。

まるで夜のハイキングみたいだった。

到着した頃には皆、蒸し暑い夏の夜ということもあって汗ばんでいた。

辺りは夏の虫たちの泣き声がこだまする森の入口。

200メートルくらい先にある車の通らない道にポツンと立った街灯の光が、まだ明かりの灯っていないログハウスの前に立つ私たちにか

すかに届いていた。

「よし！じゃあ今鍵をあけるぜ」

まだ皆が知らせてもらっていなかったユウ君の“目的”。

どういう理由で集まったか、まだ私たち5人は知らなかったのだ。

だけどユウ君の様子はなんだかとても興奮しているみたいで、ゆっくり歩いて来たはずなのに鼻息も荒くて……。

そして、明かりのついた涼しいログハウス内に入って約20分後。

私たちはついにその理由。そう、ユウ君が私たち同級生をここに集めた“目的”が明かされた。

「す……すごおい！！な……何これ……」

ログハウス内に設けられた家庭用プロジェクターの大きなスクリーンに映し出されたのは、大人の男の人と女の人が大勢集まって、裸になってひたすら交わっている映像だった。

卑猥な部分まで、全部全部全部見えた。

私たちはあまりの衝撃映像に、ポカンと開いた口が塞がらなかった。

“セックス”

その言葉は確かに知っていたんだ。

だけど……まだ私たちには関係ない話っていうか……まだそんなの……そんなの怖かったの……。

だけど。

ユウ君ってとっても大胆で！！

「みんなで今からこの映像と同じことをしたいって思ってるんだ！」
ためらいもせずそう言って、服を脱ぎ出したの・・・。

恥ずかしいのは私だけじゃない。

ミヤもミユキも同じ様子だった。

だけど、そんな女子たちを尻目に男子たちはユウ君に賛同！！

ユウ君に倣って服を次々に脱ぎ捨てていって、すごく喜んでるの！！

なんてエッチな男子たちなのっ！？？

「やろうぜやろうぜ！！セックスセックスウ！」

「男子たち！！分かってるの？？遊びじゃないんだよ？」

あまり自由で乗り気な男子たちに、動揺して私たち女子は叫ぶ。

だけど、男子たちってもう言いだしたら止まんないの！！

「みんな脱ごうよ！！」

大胆な男子たちはその勢いでパンツも、下着まで脱いでしまっって・・・。

すごいの・・・男子たちのおちんちんが、そのすぐ直前まで映像で
見ていた大人の男の人みたいに・・・すっごく大きくなってるんだも
の！！

なんかそこだけ別の生き物みたいだった。

私もミヤもミユキも、恥ずかしすぎて真っ赤になってた。

「キャアッ！！変態っ！！」

そんな感じでずっと拒否しながら困っていた私たちだけど、最後は男
子たちの勢いに負けてしまったんだ。

「変態ユウ君！幼馴染だからって許さないからね！」

ノリノリの男子たちの中でもひとときわ嬉しそうなユウ君。

私は変態な“この会の主催者”を恨めしそうな目で見つめながら、友

人のミヤとミュキと一緒に服を脱いでいく。

昼夜関係なく暑い夏場だから私たち女子は男子たちと同じでとっても薄着。

上はみんなノースリーブで、下は私とミヤがミニスカートを、そしてミュキはとっても短い短パンを穿いていた。

そして、私たちは素っ裸になった。

———体験版ではここまでとなります———